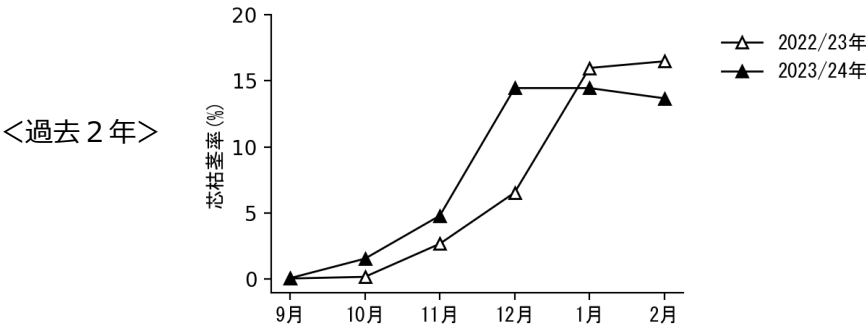
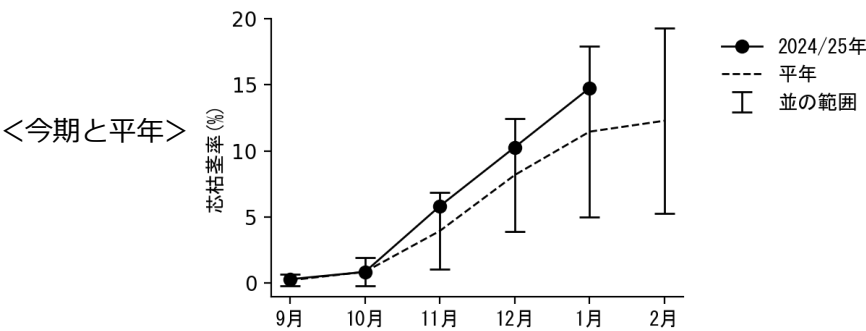


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

芯枯茎率の推移（夏植え）



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ（68%）、イネヨトウ（32%）
- ・発生ほ場率100%（平年：92.0%）

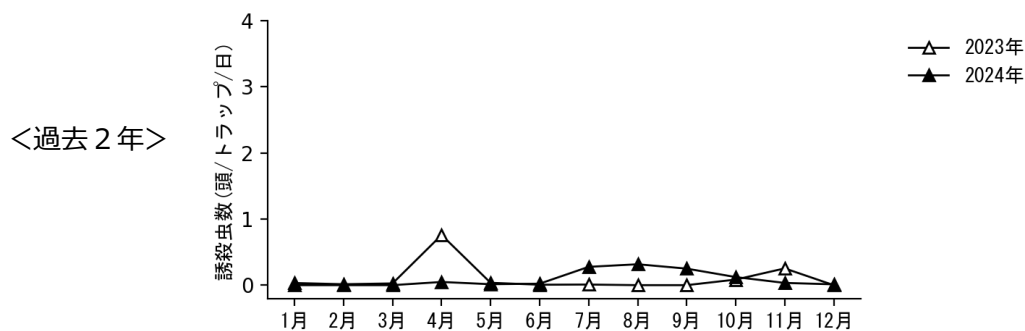
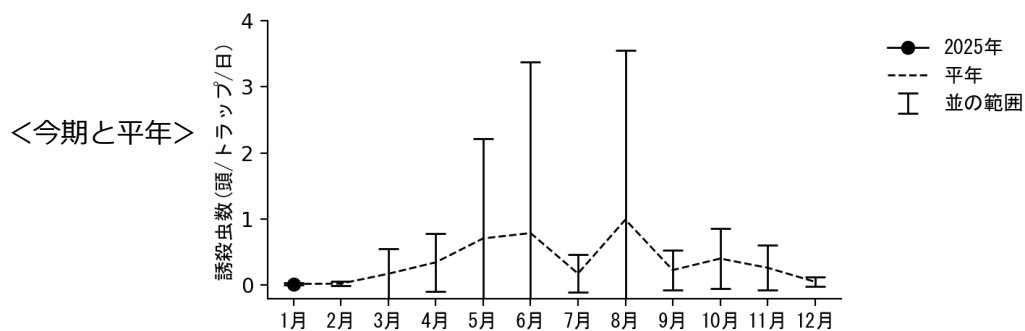
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率20.0%（平年：37.0%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

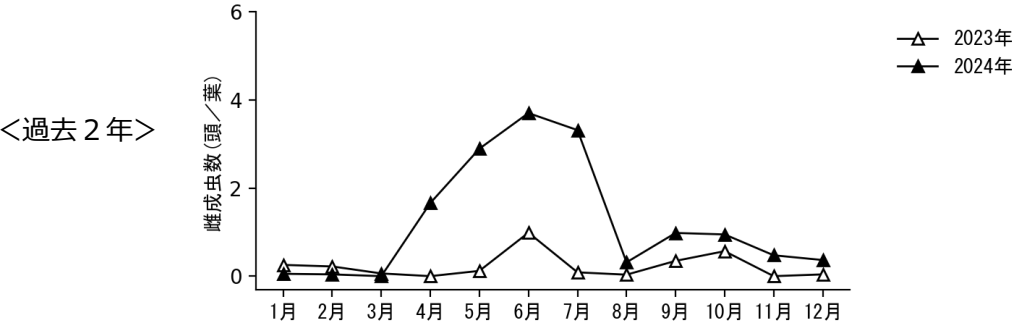
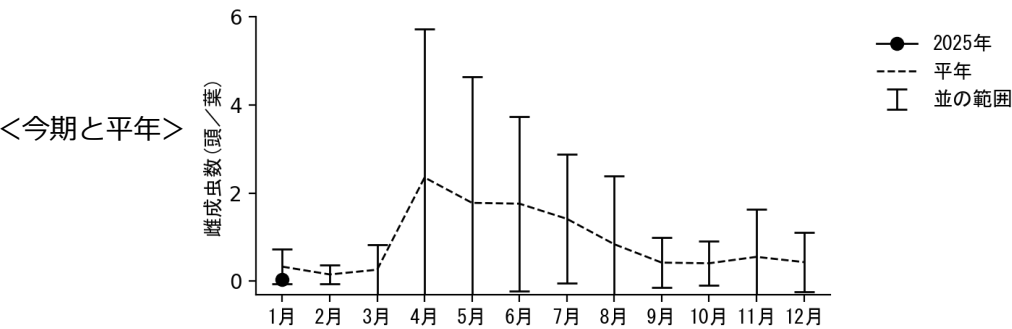


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0%（平年：28.6%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

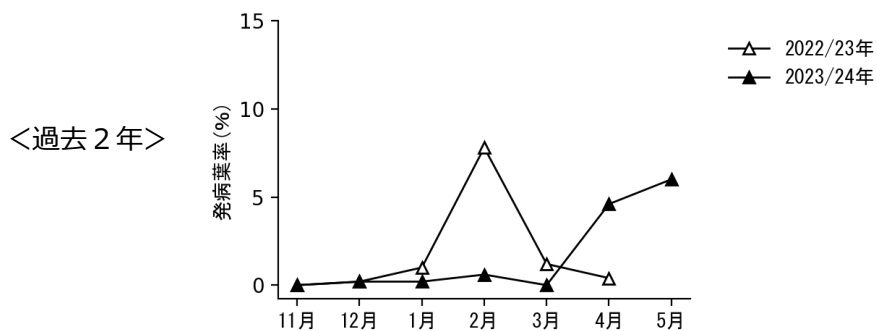
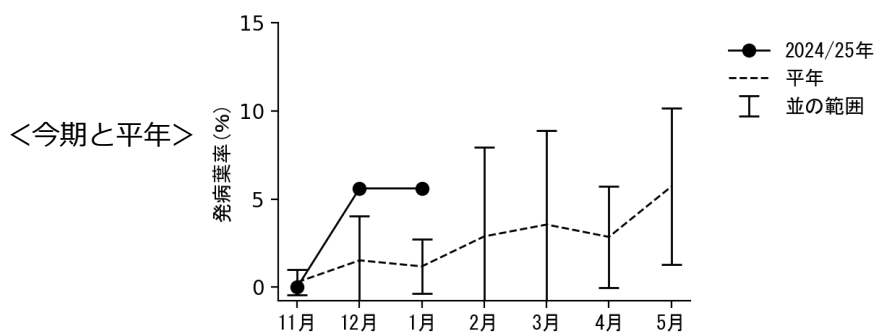


マンゴーツメハダニ

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生施設率40.0%（平年：25.0%）
- ・一部施設で多発

防除のポイント

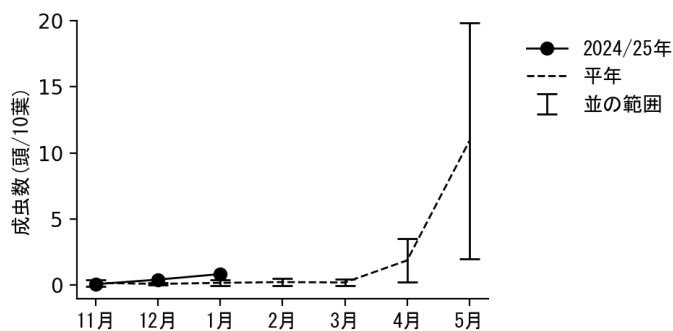
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移（→）		

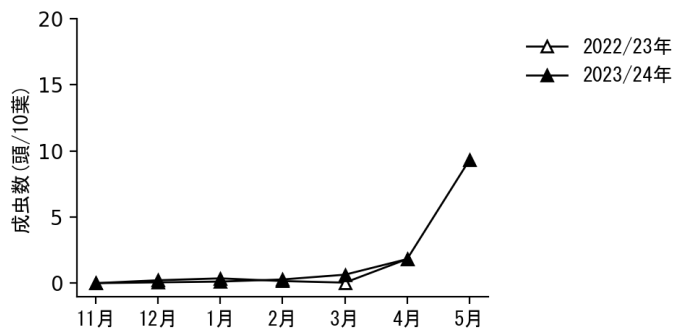
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率60.0%（平年：32.1%）

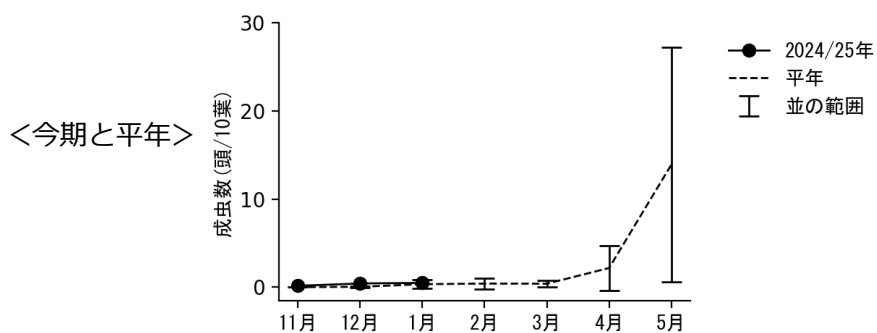
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

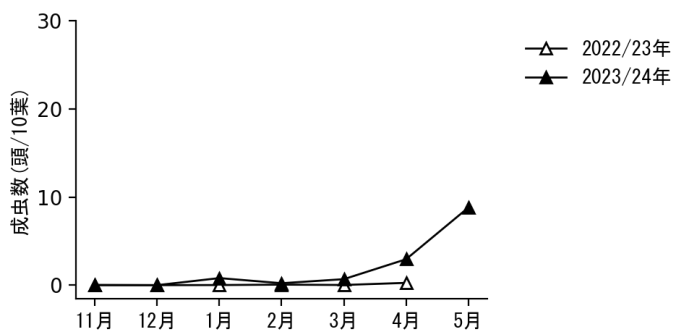
作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移（→）		

調査結果

成虫数の推移



<過去2年>



・発生施設率20.0%（平年：25.0%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

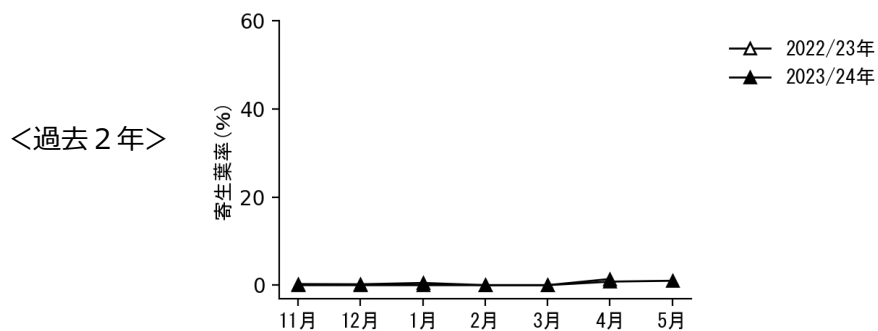
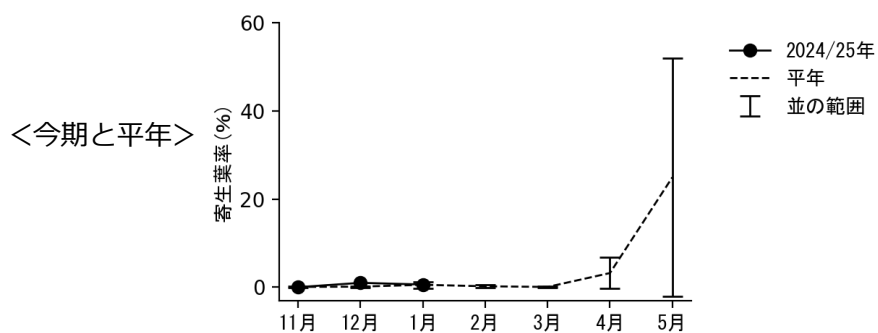


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率20.0%（平年：17.9%）

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

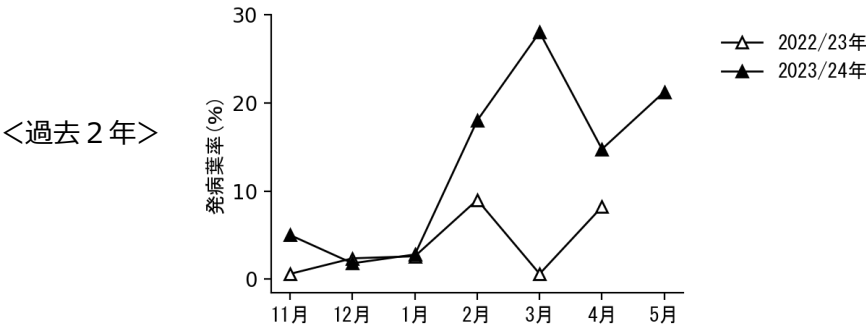
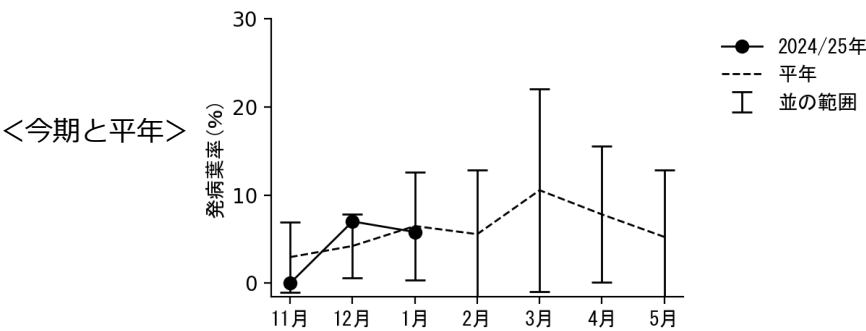
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0%（平年：68.0%）

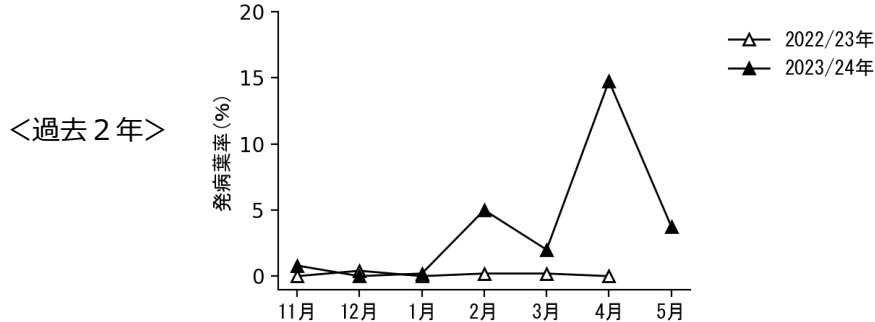
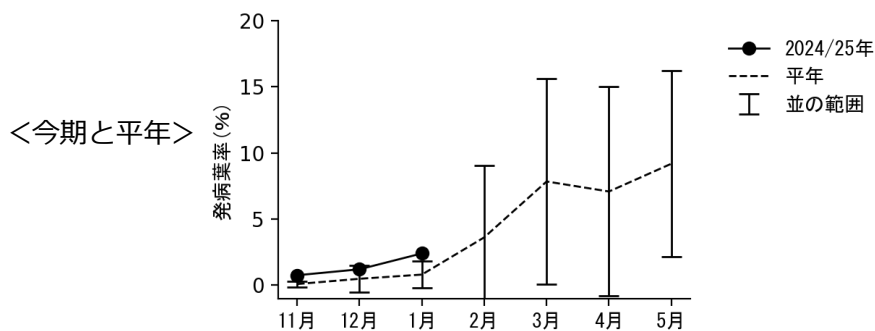
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率40.0%（平年：22.0%）

・一部施設で多発

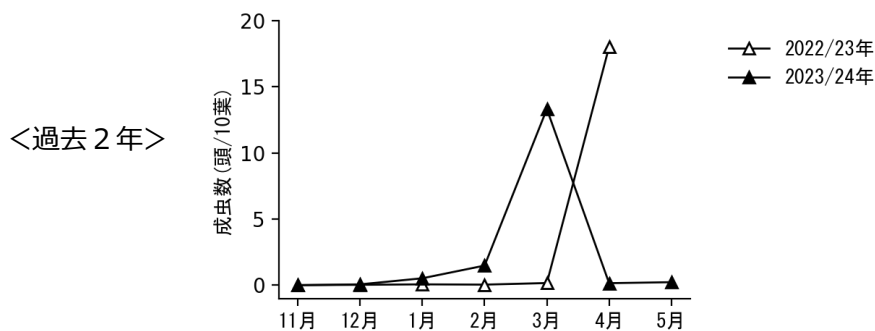
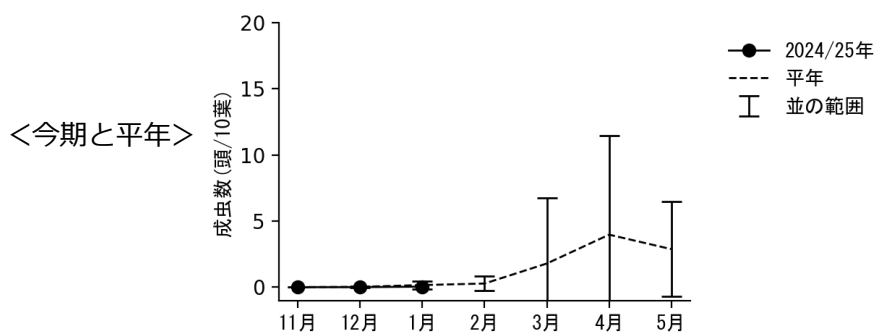
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0%（平年：16.0%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



幼虫